仕事が出来る人と出来ない人の違い

英語で「仕事が出来る出来ない人」と言うの表現を聞いた事が無かったので、日本でよく使われるこの表現が不思議で私なりの意見を述べさせて頂きます。

まず、仕事が出来ない人は存在しません。

これは決して、誰でも仕事が出来ると言う、可能か不可能かと言う言葉の遊びでは無くて、仕事で平均以上の成果を出す事が出来ない人は存在しないと言う事を申し上げております。

そもそも、森羅万象はグレーであると言う動画で申し上げたように、物事を両極端で考えるのでは無くて、０か１００、白か黒と考えるのでは無くて、その間に全てが位置すると考えるべきで、だからこそ、両極端に、仕事が出来る出来ない、私は仕事が出来ないから人生終わったと、まずは考えないようにしましょう。

そもそも、仕事なんてゴミのようにあるわけですから、その中であなたが仕事が出来ると言われるような仕事を探せば良いわけです。考え方としては、あなたの強みを活かせる仕事、もしくは、あなたが継続して努力出来るような、情熱を持てる仕事を探すべきと言う事です。

だから、色んな学問を学ぶ事は大切で、色んな職種を経験する事は大事で、新卒で特にこれと言った強みや情熱の持てる役職が無いのなら、ジョブローテーションのある会社に入社するべきなのです。

何かあるはずです、あなたの強みを活かせるか、情熱を持って向上するために努力し続ける事が出来るお仕事が。もし無くても、根気さえあれば、何かの役職に対して、それを極めるために勉強し、フィードバックをもらいと言うループを繰り返せば、仕事が出来るレベルまで到達できるはずです。

ただもし、試せる物全て試して、努力してもダメだったら、それはあなたの負けです。仕方がありません、この世の摂理、生まれ持った遺伝子的な個人差や環境の違い、運の有無など、あなたにはコントロール出来ない事がたくさんとあって。どんなに努力した人でも報われない事はザラにあります。それが人生であり、現実です。

「別に仕事が出来なくても良いし」と言うあなた。外注、アウトソーシング、ロボってによって、仕事が出来ない人間の仕事は奪われます。進化しようと、向上心の無い人間はただただ滅びると言う事がこれからの５年１０年１５年で証明されるでしょう。